

## 第2回 観光立国推進閣僚会議 議事要旨

日時:平成 25 年6月 11 日(火) 9:05~9:18

場所:官邸4階大会議室

出席:安倍内閣総理大臣、麻生副総理・財務大臣、新藤総務大臣・内閣府特命担当大臣、谷垣法務大臣、岸田外務大臣、下村文部科学大臣、田村厚生労働大臣、林農林水産大臣、茂木経済産業大臣・内閣府特命担当大臣、太田国土交通大臣、石原環境大臣・内閣府特命担当大臣、小野寺防衛大臣、菅内閣官房長官、根本復興大臣、古屋国家公安委員会委員長・内閣府特命担当大臣、山本内閣府特命担当大臣、森内閣府特命担当大臣、甘利内閣府特命担当大臣、稲田内閣府特命担当大臣、加藤内閣官房副長官、世耕内閣官房副長官、杉田内閣官房副長官、鶴保国土交通副大臣、長谷川内閣総理大臣補佐官

### ○太田国土交通大臣より冒頭挨拶

・ただ今から観光立国推進閣僚会議の第二回会合を開催する。まず、ワーキングチームにおいてとりまとめたアクション・プログラム案について、ワーキングチーム座長の鶴保国土交通副大臣から説明する。

### ○鶴保国土交通副大臣より「観光立国の実現に向けてのアクション・プログラム」を説明。

### ○意見交換

(谷垣法務大臣)

- ・法務省においては、これまでも観光立国推進の観点から、クルーズ船の乗客に対する入国審査の合理化など出入国手続を円滑に行うための施策を実施してきた。
- ・本アクション・プログラムに盛り込まれた新しい施策は、出入国手続の更なる迅速化・円滑化に寄与するものである。
- ・今後、これらの施策の速やかな実現に向けて、精力的に取り組んでいくので、関係大臣におかれてもご協力、ご支援をお願いしたい。

(岸田外務大臣)

- ・ただ今言及があったように、外務省としては、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピンに対するビザ緩和を夏までに実施することとした。この措置は観光立国を推進し、ひいては成長戦略に貢献するものと確信している。
- ・本年は、日・ASEAN友好協力 40 周年であり、今回のビザ緩和はその節目にふさわしい措置である。他のASEAN諸国についても年末の日・ASEAN特別首脳会議までに結論を得るべく取り組んでいきたい。関係省庁の引き続いてのご協力をお願いしたい。

(林農林水産大臣)

- ・おいしい日本食や我が国の優れた食文化を海外に発信し、幅広い日本ブランドの一環として我

が国の魅力をアピールすることは、農林水産業の潜在力を活かして、成長産業化していくことにつながる。

- ・先般5月30日に、国連食糧農業機関(FAO)の「世界農業遺産国際会議」が能登半島において開催され、新たに我が国の3地域、熊本県の阿蘇、大分県の国東半島、静岡県の掛川市が認定されたところである。我が国の農山漁村にある多様な地域資源を活かして、内外の観光客にアピールすることが必要。
- ・「農林水産業・地域の活力創造本部」の場も活用しながら、関係各省と連携して、食や農山漁村といった観点から、観光立国を推進していくための施策に、積極的に取り組んでまいりたい。

(石原環境大臣)

- ・観光立国の実現のためには、世界自然遺産や国立公園など我が国の貴重な自然の活用が不可欠である。環境省としては、これらの地域をしっかりと保護しながら、情報発信を行う。
- ・本年5月には、三陸復興国立公園を創設したところであり、今後、青森県八戸市と福島県相馬市を結ぶ「みちのく潮風トレイル」も順次開通させる。被災地の観光業の復興にも貢献したいと考えている。

(根本復興大臣)

- ・「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」には、先般、復興推進委員会で中間とりまとめが行われた『「新しい東北」の創造に向けて』の内容も盛り込まれている。
- ・復興庁としては、東日本大震災復興推進調整費を活用し、被災地で既に芽生えている先進事例を育て、横展開を進め、東北、ひいては日本のモデルとしていくことで、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」の実施にも協力していきたい。

(山本内閣府特命担当大臣)

- ・沖縄は、東アジアの中心に位置し、日本を含めアジアの主要都市から飛行4時間圏内という地理的優位性がある。
- ・このような中、外国人観光客の受入態勢の強化に向け、例えば、CIQの迅速化・円滑化などは、沖縄県からの要望も強く、ぜひとも実現していただきたい項目である。
- ・内閣府としては、沖縄の観光振興を推進していくことにより、我が国の観光立国の実現を強力に後押ししていきたい。

(甘利内閣府特命担当大臣)

- ・成長戦略においては、2030年に訪日観光客3000万人という目標を設定している。その実現に向けて、年内にASEAN諸国からの観光客に対する査証発給要件を緩和する、海外での放送枠を確保して旅番組を放送するなど日本関連コンテンツの放送に対する支援を強化していく、そのための基金の確保等の施策を盛り込んでいる。
- ・首都圏空港の更なる機能強化も進めていきたい。

(稲田内閣府特命担当大臣)

- ・ビジット・ジャパン事業とクールジャパン戦略とは、効果的に連携させることが重要である。
- ・クールジャパン戦略担当大臣として、日本の多様な魅力の発信にしっかりと取り組んでまいりたい。

(太田国土交通大臣)

- ・資料についてご了解いただいたということで良いか。いただいたご意見は、アクションプログラムを推進する上で参考にさせていただく。

(安倍総理大臣)

- ・我が国には、素晴らしい自然、文化、歴史、料理など、世界の人々に自信をもって勧められる観光資源がある。これを活かし、魅力にあふれる観光立国の実現に向け、本日、「アクション・プログラム」をとりまとめた。
- ・この中で、まずは、日・ASEAN友好協力 40 周年となる本年、ASEAN 諸国からの観光客のビザについて、タイ・マレーシア向けのビザは免除、ベトナム・フィリピン向けの数次ビザ化、インドネシア向け数次ビザの滞在期間延長により、一気に緩和することを決定した。夏までに実行する。
- ・また、放送コンテンツの大々的な海外展開、海外のチャンネルの確保など、政府全体で日本ブランドを海外発信し、アジア No.1 の国際会議開催国の地位を不動のものとする。
- ・史上初めての訪日外国人旅行者数 1000 万人を達成し、さらに 2000 万人を目指していくため、この「アクション・プログラム」を直ちに実行する。
- ・我が国の経済成長や地域活性化のため、また、世界中の多くの方に、美しい日本を直接体験していただけるよう、関係閣僚のご協力をお願いしたい。

○太田国土交通大臣より閉会挨拶

- ・本日の第二回会議はここで閉会とする。なお、本日の議事については配布資料を含め公開することを予定している。

以 上